

JSL カリキュラム 6 年算数科学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

1 単元名 「体積 かさを調べよう」

2 対象

(1) 子どもの実態

- ・ 出身国： 中華人民共和国
- ・ 母語： 中国語
- ・ 滞日歴： 1 年 8 か月
- ・ 就学年月： 1 年 8 か月

(2) 子どもの現在の学習する力（レディネス）

〈 日本語の力 〉

① 聞く力・話す力

日常会話はほぼ身についている。教師の指示も理解し活動にスムーズに入ることができている。多文化共生サポーターに質問する回数は減ってきている。しかし、社会科では「城」と「白」などの同音異義語や「どんどん寒くなる」と「太鼓をドンドン叩く」などの違いを話の中から選択して理解することが難しく、また、語彙量がまだまだ少ないため、「ねんど」や「そっくり」などといった言葉を、児童が持参している電子辞書で調べることもある。

他の児童の前で、朝のスピーチや国語科で自分の感想や意見等を述べる時は、事前に練習をしてから行っている。また、理由を発表することは苦手である。

② 読む力

音読み・訓読みの使い分けが難しいため漢字にルビ打ちをすることで上手に音読できる。また、学級文庫の「はだしのゲン」を好んで読み、その大意を読み取ろうとしている。しかし、4 学年以上の国語科の読解問題になると、問われている内容がわからず解答できなかったり、誤答が多かったりする。

③ 書く力

平仮名、カタカナは確実に書くことができる。しかし、漢字は使用頻度の高い漢字の習得は出来ているが、「帰る」「会う」など 2 年生の漢字もまだ習得できていない部分がある。また、中国語の漢字と混同してまちがう場合も見られる。一日感想を書く場面では、助詞の用法を誤ったり、接続語がうまく選択できていなかったりする。

〈 教科の知識・スキル 〉

学習への関心や意欲は非常に高く、積極的に取り組む姿勢が見られる。しかし、発表するときに、わかっても周りの反応を気にして発言しないことがある。

足し算・引き算・かけ算・割り算などの計算は習得している。しかし、文章問題になると、問題の意味が理解できず立式できないことがあるが、担任や日本語指導加配教員、新学習システム担当に聞いて意味を理解すると、積極的に問題に取り組む。

児童は、面積について 3 年生の時に中国で習得しているが、体積は未習である。面積の問題では図を見て解答することが多いため、公式に合わせて問題を解くなど、スムーズに問題に向かうことが出来る。

(3) 教材観

4年で長方形、正方形の面積の求め方、そして、5年で三角形・一般四角形・平行四辺形・台形・ひし形の面積の求め方を学習してきている。本単元では、それらの学習を生かして、体積の求め方を考えていくことになる。しかし、直方体や立方体の体積は3次元の広がりをもつ量であるため、児童にとって理解が難しい。そこで、具体物の提示や具体物の操作活動を取り入れ、体積の概念を理解させながら、体積を求める公式を考えたり、その公式を活用したりすることで、数学的な考え方を育成していきたい。

(4) 外国人児童に対する指導方法

〈日本語における指導方法〉

現在、児童に対して、擬態語・擬音語、接続語などの説明や例文を挙げるなどの支援を同室複数指導や別室個別指導により行っている。別室個別指導では、社会科で、人物カードを作り、学んだ内容を要約させたり、国語科で、接続語カードを用いて短文作りをしたりしている。

また、同室複数授業では、児童が発表がしやすい環境をつくるための先行授業や、発表する内容の確認を事前に行って自信をつけさせるなどの指導・支援を行っている。

〈算数科における指導方法〉

算数科は同室複数授業を行っている。児童が、文章問題や教師の指示などが難しくて、スムーズに活動に入れない時や、質問がしたいと感じている時に適宜指導・支援を行っている。本単元では、具体物を使って視覚的に理解できるように支援するとともに、班活動や発表をする時に順序よく話せるように文型を掲示して支援していく。

3 単元目標

体積の意味および単位と測定について理解し、立方体や直方体など簡単な場合について、体積を求めることができる。

4 評価規準

- 【関心・意欲・態度】 単位となる大きさのいくつ分としてももの大きさを数値化することのよさがわかり、進んでこれを活用しようとする。
- 【数学的な考え方】 直方体や立方体の体積公式を考え出したり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫することができる。
- 【表現・処理】 直方体や立方体の体積を求めることができる。
- 【知識・理解】 体積の意味がわかり、単位 cm^3 、 m^3 を知る。

5 指導計画（全9時間）

第1次	課題設定と体積の意味	(1時間)	…本時
第2次	直方体・立方体の体積	(2時間)	
第3次	大きな体積	(4時間)	
第4次	体積の求め方の工夫	(2時間)	

6 本時の学習（第1次 第1時）

（1）目標

- 教科の目標
 - ・直方体の大きさを数値化する方法を考え、体積の概念を理解して、単位 cm^3 を知る。
- 日本語の目標
 - ・「かさ」の意味を知る。
 - ・自分の考えをワークシートに日本語で記入し、発表する。

（2）準備物

教師：具体物（ゼリー、色水） ヒントカード ホワイトボード

ワークシート 積み木

児童：必要に応じて電子辞書（児童が持参している。）

（3）授業展開（同室複数授業）

	学習活動	主なやりとり	支援
つかむ	1 学習課題を確認する。		○具体物を示し、本時の学習の見通しを持たせる。
		㊸と㊹ではどちらが大きいでしょう？	
深める	2 比べ方を考える。 （班活動） 3 発表する。	T: ㊸と㊹の比べ方を考えましょう。(AUカード C-6) C: 長さで比べました。 C: 重さで比べました。 C: 見た目です。 C: はみ出し具合で考えました。	○班での話合いがスムーズに出来るように、話し合いの手順を説明する。 ○ホワイトボードに書かせ、それぞれの考えを提示させる。 ○具体物を利用することで、「重さを比べる」「水の中に入れて、こぼれた水をはかる」など、様々な方法が思い浮かぶようにする。
	4 どうやって数値化するか考える。 5 発表する。	T: ㊸と㊹で、数での表し方を考えましょう。(AUカード K-3) C: まず図に線を引きました。そして、立方体を数えて考えました。 C: 私は面積で考えました。 C: 私は〇〇さんと少し違って、面積だけじゃなく、何段あるかも考えました。	○ワークシートに線や点などを書きながら数値化する方法を考えさせる。 ○考えが出ない時は、ヒントカードを利用する。 ○面積の学習を振り返らせ、数値化して大きさ比べをしたことを想起させる。

ま と め る	<p>6 まとめ</p> <p>1 cm で囲まれた立 体を 1 cm³であるこ とを確認する。</p>	<p>T : かさのことを「体積」と言います。 1 cm³と書きます。</p> <p>T : ㊸は 1 cm³がいくつあるか数えましょ う。(AU カード D-1) C : 24 個です。</p> <p>T : ㊹は 1 cm³がいくつあるか数えましょ う。(AU カード D-1) C : 27 個です。</p> <p>T : ㊸と㊹、どちらが大きいですか。 (C-8) C : ㊹が大きいです。</p>	<p>○ワークシートに記入させる。</p> <p>○具体物を使って視覚的に確認 を行い、体積の公式につな がる考え方であることに気づか せる。</p> <p>○1 cm³の立方体を積み重ねて体 積を求めることができること をおさえる。</p>
------------------	---	--	--

【評価】

- ・ 直方体と立方体の大きさを数値化し、体積の概念を理解することができたか。
- ・ 日本語で自分の考えをワークシートに記入することができたか。